

地域密着型サービス評価の自己評価票(東棟)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	グループホーム理念の中により具体的な形で地域交流についての事柄を入れていく(地域密着)
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員全員が理念に対しての深い理解を促していくために、個人面接を頻度実施していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	施設での催し・イベント(バーベキューなど)を行い、参加して頂くことによって、お付き合いのきっかけ作りをしていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議を行うことで、町内会・自治会との交流をさらに発展させていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の状況を把握できないこともあり、話し合いがされていない。	○	今後、運営推進委員会などの活動を行なうことによって、具体的な話し合いをし、(地域住民に方と)地域に、より溶け込み、取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的な基準によりサービスの質を評価することで、改善点を明確にし、質の向上につなげている。	○	外部評価の意義を理解し、職員全員が、改善点に対する意見・考えを発言できるよう努力していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、実施予定段階であり、事前準備の活動をしている。状況報告を行い、利用者・家族・地域住民の方からの意見を積極的に取り入れるような形をめざしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ、そのような試みは、行なっていない。又、把握しきれないのが、正直な意見です。	○	市町村担当者に、こちらから積極的にアピールを行い、そのような機会を設けていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	知識の習得は、個々の職員の裁量に委ねられているので、その必要性について職員間に意識の開きがあり活用に至っていない。現状では、施設長・管理者のみに留まっている。	○	事業所内での講習等を行い、知識を深く、浸透させていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が、虐待防止について正しく認識していると思うが、更に職員間でお互い注意を払う事で防止につなげている。	○	個人面接を行なうことで、自己の目標(知識の習得)に掲げ、全員が正しい知識を持てるように努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、その家族と十分な時間を設けており、(場合によっては、その都度対応することによって)理解・納得を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションを通じて個々の訴えに耳を傾け、ケアにいかしている。家族・知人との時間の共有・機会は設けているが、その他、外部とのアピール機会は特に設けていない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等来訪時には、写真ファイルや介護記録などを見て頂くと共に、その都度コミュニケーションをとるようにしている。	○ なかなか来訪できない家族の方に対しても、電話や手紙等での報告を行っていき、出来る限り、来訪を促していく努力を行なう。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等来訪時には、その都度コミュニケーションをとる様にし、意見・希望には沿えるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションもあるが、主に毎月のカンファレンス時を中心に意見交換を行っている。	○ 職員全員が、意見・提案を言えるような環境をつくっていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や生活習慣を基本に改善の必要性を感じたときは、勤務時間の調整や職員増員等を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独型として運営しているため、異動等の問題は特にないが、離職については、職員との話し合い・意見の聞き入れ等、努力はしているが、自己都合もあり、難しい場合がある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間研修計画を立て、研修参加・機会を試みているが、個々のスキルや姿勢に差があり、全員が参加する状況には至っていない。	○	研修参加の必要性・意義を深く理解してもらい、積極的に参加してもらう。(個人面接等を中心に)
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	主にグループホーム協会を通じて、地域カンファレンス等の勉強会に参加し、同業者との交流を深め、意見交換を行っている。又、そのような活動を施設運営のサービス向上に活かしている。	○	職員全員にそのような機会を設けていく。又、機会をつくる努力を運営者は行っていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の個人面接を頻度に行い、個人の希望・要望に沿えていけるように努力している。又、県内でのレジャー施設等が割引きになる会員クラブに登録している。	○	業務以外での職員間の交流(イベントなど)を企画し、密な関係・働きやすい環境をつくっていく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	すべてを把握していると思います。その上でその努力・実績に反映した形で評価を行なっている。但し、向上心については、個々の裁量もあり、全員が至っていない。	○	面接等の実施を行なうにあたって、個々のビジョンを明確にし、目標に向かって、向上心を持って働けるように努力する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用するにあたって、その家族から、アセスメントを中心に話し合う機会を設けている。又、どのような生活環境を創っていくかなども話合っている。	○	本人の希望に対し、職員全員が理解し、行動できるよう、事前に(初期段階)職員間でより話し合っていく努力をしていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	23と同様に努力している。	○	23同様に行っていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めについては確信は持てないが、利用者・家族の希望・要望に沿え、対応を努めている。	○	希望・努力に応えられるような工夫・アイデアを職員同士が話し合う機会を設けていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるように、場合によってはショートステイ・日中の利用を行っているが、家族の意見がその限りでないことがあり、すべての利用者に対応が出来るとは言えない。	○	家族との連携を密に行い、より本人にとって安心したサービス利用ができるよう努力していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の状態に応じた手伝い(ゴミ捨て・お掃除等)や外出・散歩・趣味を通してコミュニケーションを図ることで、関係構築している。	○	介護される側・する側的な意識をなくし、共に生活をする場的な考えを職員全員が理解し、そのような環境をつくるようにしていく(個人面接)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等来訪時には本人の希望(楽しみ)をお伝えし、お互いに補いながら希望に沿えるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族等来訪時には、写真ファイル(アルバム)など見て頂くことで、話題を提供し、コミュニケーションをとりやすいよう支援している。	○	本人と家族と一緒に時間を共有できる機会をより多く設け、企画していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人などに連絡できる様、電話をかけ易くしている。(居室での子機使用)又、手紙を出せる様に支援している。又、ご家族と相談し、ご自宅への帰郷の送迎も行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性を考慮し一緒に散歩・外出・外食の機会を設ける事で、共通の話題作りが出来るよう支援している。他方では一人を好まれる方がいる事に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了しても、利用者・家族との関係は継続している。来訪して頂く事も多々ある。	○	ご自宅等への来訪を積極的に行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやコミュニケーションを通じて、個々に把握している。その実現に向けて調整(家族等の理解・支援)を図っている。	○	職員全員が、利用者のサインに対して気づく・見逃さないよう意識し、支援を行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等来訪時にはコミュニケーションを図り情報を得たり、ケアを通じて把握する様に心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「生活実施表」を作成し、個々の状態について総合的に把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主に職員間の話し合いにより事が多いが、本人の希望に沿える様、一人一人の状態に応じて生活意欲の向上やADLの維持・改善を目指した計画作成を心がけている。	○	職員全員が意見・アイデアを言えるように、本人に対し深く理解し、介護計画作成を行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	出来るだけタイムリーに新たな計画を作成する様にしているが、状態の見極めをする間は日々の申し送りにて、ケアの変更や見直しを常に図っていくことで対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護経過記録を記入している。又「生活実施表」にて情報を共有し、計画作成に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア活動の方の協力・図書館や公共施設の利用を行い支援をしている。	○	運営推進会議を主に、そのような機関との協力を今まで以上に持てるようにしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院への受診を支援している定期的に受診し、予防の支援と医師とのコミュニケーションを図る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>特に認知症の専門医との関係は図られてはいないが、精神科・心療内科等への受診支援は実施している。</p>	○	認知症に対して詳しい医師との関係を図っていく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>状況に応じてその都度、看護職員とのコミュニケーションを図っている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、その主治医又は看護師との連携(情報交換)は密に行なっている。又、頻度に病院への来訪を心がけている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアについて医療関係職及び家族等と対応策を話している。また職員は利用者への支援内容について十分理解している。</p>	○	出来るだけ早い時期より、ターミナルケアの対応についてのマニュアルの整備と準備をしていく。また職員が事前に基本的な支援内容について理解し、実践できる様にしていく。また「死」について考える機会を設けていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療関係者との連携を十分にとりながら、主に状態に応じた身体的・心理的ケアの支援をしている。急変時において職員はその判断と対応が出来る様になっている。</p>	○	その人らしさを最後まで尊重し、苦痛の緩和・安らかで穏やかな最期を迎えられるように支援していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特に家族等へのコミュニケーションを十分に図り、情報提供をしている。</p>	○	移り住む際に、その後の関係を保つ(来訪・電話)ことにより、ダメージの防止・軽減を図るようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に意識して接している。個人記録はファイリングし、職員に限り見る事が出来る様にしている。	○ カンファレンス等を通して、再度、職員間での見直しを行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に表情や言動に注意し、言葉として発せられない状態においては、その思いを探りながらのコミュニケーションを心がけている。又個々の状態に合わせた声のトーン・口調・内容で接している。その場面場面での言葉かけをして支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の守るべき最低限のルール以外は、本人の意思に沿った生活を送って頂いている。散歩や日光浴などは希望時に声かけにて実施している。希望する個々の外出などは可能な限り調整し、実施している。	○ 常にそのような意識を持つよう、個人面接・カンファレンス等で促し、出来ていないように思われる場合は、その都度、職員との話し合う場を設けていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員が散髪したり、希望に応じて美容室への支援をしている。また化粧品を用意し、家族来訪時や外出時には化粧の支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物は味付けや調理方法を変えたり、個々の状態に合わせて刻みやトロミの工夫をしている。一緒に食事を楽しみ、必要に応じてさりげなく介助している。テーブル拭きや食器下げなどのお手伝いを、自主的にして下さる方もいます。	○ 献立作成を行なうにあたり、利用者一人一人の希望(好きなもの)を反映させていく。(お楽しみ献立の作成)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調や疾患の状態に応じて可能な限り提供しています。晩酌を楽しんでいる方もいます。	○ 喫煙場所のスペース確保を確立する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツの使用を止めパンツ・パットやリハパン使用に切り替えている。排泄パターンに基づく、声かけをさりげなく試みています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的にサイクルに基づき入浴して頂いています。自立度の高い方は希望に沿った入浴を楽しんでいますが、そうでない方は、職員体制に基づいた午後入浴を基本としています。	○	その都度、本人の希望に対応できるように職員間の連携をよりよくしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない配慮をしながら、ご自分のペースで休んで頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態に合わせてのお手伝いを通して、役割意識を持って頂けるようしています。散歩・日光浴など、積極的に実施している。外食も定期的実施しています。	○	事業所内での役割以外に、地域のなかで一人一人が力を活かせる役割を見出していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は十分に理解しているが、家族の理解を得ることが難しいこともある。使える方については、買い物等の支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	友人宅への来訪や外食など個々の希望に、出来る限り沿えるように取り組んでいる。	○	本人が希望を言いやすい環境をつくっていく(悪いなど云う意識ではなく、当たり前の意識)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に可能な限り全員で外出できる機会を設けている。又、希望に応じて、墓参り等の外出を支援している。	○	61同様

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて利用でき、手紙・はがき等、いつでも出せる様に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時には、状況や希望に応じて、居室・ホールで気兼ねなく過して頂ける様に支援している。又、写真ファイルなどを見て頂く事で、話題を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しなくても済むような工夫・努力を行い、支援・対応している。	○	勉強会の実施、又、個々の学習する機会を設けていくよう取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に職員が、利用者の居場所に注意を払い、見守りを行い、又、一緒に行動することで対応しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールに居るときには、その傍で。又、常に全体を見守ることのできるポジションを選んでいる。居室に居る時は、ドアの隙間から見守りをしている。夜間は巡視を行なうと共に、移動を察知する工夫を行い、対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	趣味を楽しんで居る時に、必要なものは(刃物等)使用して頂いているが、ホールでの使用(職員と)を促している。薬は専用ケースで保管し、危険物(刃物・洗剤)などは、置き場所を決め、利用者の目の届かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について、施設内での研修を実施し、又、個々の状態に応じた見守りや介助・支援により対応している。	○	知識の向上又、事故防止に対する意識のあり方など、より注意を払う努力を怠らない環境をつくっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練・応急処置の方法に対する講習は、行なっているが、もっと定期的に行い、全員が対応できるような対応は必要でないかと思う。	○	施設内での講習をより頻度に行い、職員全員がより理解した・実践できる段階にする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、想定状況を毎時変えながら、定期的に行なっているが、地域住民の参加は試みていない。	○	近所付き合いを通して、協力して頂ける様に努力していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族等来訪時には、生活状況を伝えると共に、懸念される事柄についての説明をし、意思を尊重した対応策を話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・食欲・水分摂取・排泄・睡眠・言動などを常に観察し、気づいた点や変化は日々、申し送りにて共有し対応している。	○	申し送り等、職員間の連携に対し、常に運営者・管理者が徹底させていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に「受診記録」を作成し、薬に関する説明書と一緒に専用のファイルに閉じ、常に確認できるようにしている。又、管理・提供を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄状況は記録し把握している。おやつにヨーグルトを提供(ほぼ毎日)、状態に応じて便秘薬の提供、散歩・歩行運動・他動運動など個々の狂態に合わせたケアを行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨き・うがい等、個々の状態に合わせたケアを行なっている。又、義歯の手入れ・噛み合わせの確認、口腔内のチェックを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録し把握している。必要に応じ、嗜好を考慮し提供している。又、個々の状態に応じてさりげなく食事介助を行なっている。	○	栄養士の配置など、よりよく支援できる方法を考えていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルは、台所や休憩室など職員の目の届く場所に貼ってある。又、定期的な予防接種やノロウイルス対策としての手洗い・消毒の徹底を図っている。	○	感染症に対する職員の知識の向上を行っていく(施設内・外の研修等)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗いの徹底やフキン・まな板・包丁等の消毒をその都度しています。又、食材に対する注意も怠らないようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りを常に清潔にし、プランター・植木鉢に草花を植える事で、明るい雰囲気と季節を感じて頂けるようにしている。	○	事業所内にある畑に対し、より活動的に行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓を設け、自然な採光を出来るだけ多く取り入れるようにしている。また西日等、不快な光は、ブラインダーを設けることによって対応している。また、思い出の写真を壁に掲示したり、花を飾るなどにて生活感・季節感が出るよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、一人になれるスペースはないが、和室の活用により、そのような空間の提供はしている。	○	和室をもっと使用しやすくしていく。又、コーナー取りが出来るようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に家族と話し合う機会を設け、出来る限り、今までの生活での品や荷物を入れて頂く様にしている。しかし、了解が得られず、新しいものを購入する利用者の方もいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の他に天窓の開放や天井ファンを利用し、通気性を良くしている。エアコン等の季節によつての設定温度を決め調整しているが、個々の状態に応じた対応もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに新たに手すりを設けたりして、自立への試み・安全策に対応している。	○	今後、利用者の状況に応じ、その都度、手すりの配置や自立した生活への配慮を検討していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態が異なっているので難しいが、環境面で不足している所は、介助にて補っている。	○	今後も状況に応じ、配慮していく努力を怠らないよう努力していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先でのティータイムや楽器演奏、バーベキュー、又、紙芝居(ボランティアの方)等の活動を行い、楽しんで頂ける様に試みている。	○	より楽しく活動できる工夫・アイデアを話し合い行動に移していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者施設（認知症高齢者）としての概念に捉わられることなく、すべてのことにおいて柔軟に対応できるグループホームでなくてはならないと考えています。